還暦・古希・喜寿 そして

# 傘寿談議

徳島剣山世界農業遺産支援協議会 会長
永井 英彰

## 情報分析で売れ筋など予測
## 「愛してとくしま大賞」決まる

十二月十三日、とくぎんとモにプラザで徳島県が主催する第6回「ICT（愛してとくしま大賞）の受賞作品の表彰式があり、『360度体感する VR徳島』（（株）ハウスマイル）に大賞、『徳島観光インサイト』＝リッチハニカム（株）にオープンデータ賞が贈られた。大賞の作品は徳島の観光名所をバーチャルリアリティ（VR）と呼ばれる技術を用いて、インターネット動画再生中に「視点だけでなく全方位を見回すことができる。

### 公開のデータを分析

一方の「徳島観光インサイト」は徳島の観光問題に対する解決策を得るため、WEBサービスから収集したデータやオープンデータを使って分析し、可視化をした作品。リッチハニカムは徳島市佐古にある会社で、社長は東大大学院卒で三十歳独身の片岡豊さん。大手企業から引く手あまたで、日経新聞によれば現在「最もセクシーな分野」において徳島で開業してくれたことが嬉しく、受賞前から仲良くなった。

その昔、球根輸入たけなわの頃、日本通運の関税倉庫を見学させてもらった事がある。そこには大小あらゆる品物が所狭しと置かれていた。案内者に尋ねたら大型コンピューターで全てデータ化されているとの事だった。そのデータを使えば今後の売れ筋商品や衰退商品も全て分かるのでないかと質問したことを思い出した。個別企業でなく、税関などの資料であればオープンデータなので調べれば入手できる。これらはリッチハニカムの得意分野であろう。

### 観光課題へアプローチ

リッチハニカムは徳島の観光課題へのアプローチとして①宿泊者数で徳島県がワースト一位 ②宿泊者は徳島の何処へ観光に行くのか ③そこで何をしたか－に分けて分析している。興味があるのは③徳島市内での宿泊者が立ち寄る場所で、次のような結果が出ている。トップは阿波おどり会館、次いで眉山、いのたに、餃子の王将徳島駅前店、大塚美術館、徳島城跡、麺王徳島駅前本店、徳島県立渦の道、大歩危小歩危、王将－となっている。このことから、徳島駅に比較的近い観光施設を訪れているが、一方で大歩危小歩危など離れた場所でも自然やそこにある歴史に触れられる場所に関心が高いことが判る。また、ラーメン店が上位を占め、来客は徳島ラーメンを楽しみにしていることが読み取れる。

リッチハニカムは阿波踊り期間などのホテル対策として寺院の開放などを企画、阿波ラーメンのトッピングにヒントを得て新しいタイプの食べ物なども提案している。

### 不耕起実験田の続報

最初に育った中国野菜の紅菜苔（菜の花）は最盛期を過ぎた。続いて採れだしたのはブロッコリーで、米ぬかや発酵酵素のバクタモン、炭の粉を撒いた畝は、そうでない畝と比べると葉の容積が三倍にもなっている。実だけ取り出すと、葉がいかにも惜しい。元県農業大学校の野田靖之先生に聞くと「青汁に使える」という。しかし、営業に使うなら兎も角、量が多過ぎる。その場合、他に運び出すのではなく畝に並べ、その上にカヤを敷いておくのがベストのようだ。畑の他に出すと次第に土地が痩せて行く。その場所に置くとそこに養分や有効菌が残り土壌が循環する。筆者はこの方法に従うことにした。カリフラワーの黄色品種・ロマネスクも初収穫ができた。食べてみたら手前味噌ながら滑らかなほっこりした味で、美味しかった。敷いたカヤの畝に植えた勝本農園提供のそら豆は一本も枯れることなく順調に育っている。昨年収穫したジャガイモが自宅の納屋で十センチもの芽を出してしまった

飯泉知事から受賞した片岡豊社長

オープンデータ賞を説明する片岡豊社長

実験田での収穫（左端は紅菜苔、右端はブロッコリー）（上）そら豆の植付け（下）

泡盛の女王と筆者

のを見つけた。勿体ないのでこれらは大きな芽は除き、一月十日、小さな芽の芋をケールの横へ植え付けた。九月に植え付けた玉ねぎは、苗が良かった数本だけはもう収穫できそうだ。

## 狭庭へカヤ敷き応用

狭庭の松などの植木を選定した時の枝木をゴミに出すのでなく、全てその場所に置いてある。そうすると見かけは悪いが雑草が減りそこに植えた植物が良く育つ。バラの鉢やチューリップのプランターにもカヤを投入している。冬の間は保温マルチの役割を果たしてくれると期待している。台所から出る野菜の葉っぱなどは掘った穴に埋めず、木の根元へ置いている。これもマルチとなり、養分や有効菌は木が吸収するはずだ。背丈程のミカン・文旦の木には大中の実が三十個も生っている。正月中に全てを収穫し、樹勢の回復を目指した。冬に咲いたイングリッシュローズ・ザ・ピルグリムが芳香を振りまいているので、毎朝匂いをかいてはニヤリとしている。通行人に見られたら変人と思われるかもしれ知れない。

旧友宅へ招かれ(上)ご馳走を頂く(下)

## 師走は慌ただしい

二十四日、ヨガと着付けの木原愛子教室の忘年会に呼ばれ出席した。二十五日、午前中は恵教会のクリスマスに参加、夕方には旧友の河野正和さん(徳島市安宅町)宅へ招かれた。妻が八十歳でジャズダンスに出演したので、その祝いのためだった。二十六日は「泡盛で盛り上げる阿波の会」へ出席、二月早々沖縄の宮古島訪問のツアーに参加の申込をした。大晦日は鳴門・(株)丁井俊社長から「鰤を捌くので取りに来い」と呼ばれて、鰤を貰いに行った。

ブリを捌く丁井社長

## 元旦は教会と初詣で

松茂町の恵教会から、クリスマスに続き元旦にもお誘いを受けた。元旦はワインを持参して自宅から教会まで歩いて行った。信者のみなさんが作ったおせち料理を肴に全員がワインで乾杯した。最も筆者が一番多く飲んだ事は確かである。

昨年の初詣で空いた時間帯と見て午後三時から鳴門市の大麻比古神社へ出掛けた。昨年は本殿の前に行列ができていたが、今年はそれがなかった。それでも結構時間が掛かり帰宅したら暗くなっていた。後日、櫛木の岡部晃司さんから、「大麻比古神社の北側から登れば待ち時間が無く、駐車場へ行ける」とのことだった。

## エコジャが衣替え

電子書籍の本誌・徳島エコノミージャーナルは今年三月号で終了する。各執筆者には有線テレビに出演してもらって、その映像を県下一円で放映する新企画を立てているようだ。

二十数年前、徳島新聞社OBから勧められてエコジャを購読した。暫くして個人が経営するようになり、なんと前出の野田靖之先生から「ボランティアで記事を書く」よう依頼された。当初は三好長慶を書いていたが、月二回発行の時期があり、一回は出水康生先生に執筆をお願いした。その後、月一回発行に復したが、二人が三好長慶を書く訳には行かない。そこで私は多少経済関連の記事と、中小企業経営者の日々の出来事を歴史、文化、ボランティアに絡めて書いてきた。その後、筆者の紹介でエコジャ発行の(株)ブレーンバンクを日本中央テレビに引き継いでもらい現在に至っている。

恵教会でクリスマス(上)と元旦の祝い(下)

還暦を迎えた年に「還暦談議」として出版、記念パーテーも開かせてもらった。今年一月で満八十歳の傘寿を、先ずは健康で迎えることができ、次の出版を検討する時期となった。

## 新たな挑戦

エコジャ原稿から解放されるなら、東南アジアへ暫く当てのない旅に出ようかと考えていたら、旧知の先生から「来月にもネパールへ行こう」と誘われた。「何故ネパールなの」と尋ねると「照葉樹林文化地帯の始まりの地だから」という。インドの北でブータンの西、以前訪問したチベットの南という僻地であるが、日本まで連なる照葉樹林文化地帯の起点と言われて、俄然その気になってきた。大地震もあったし高地だから寒さの心配もあるが、首都カトマンズは盆地であり、三月の平均気温は25～8度と暖かいので何とかついて行けそうだ。現地の案内はJAIKAの職員がやってくれるようだ。

来月二十日が締め切りの四国大学向け剣山系の傾斜地農業関連の論文(同大上野昇講師と共同執筆)は、目途が立ってきた。